

2018年1月31日 ドイツ・ミュンヘン

2018年度 第1四半期決算

期間:2017年10月1日~12月31日

堅調な受注増が際立った第1四半期決算

「第1四半期業績は当社の強みを強調するものとなりました。世界経済の好転に乗じて、産業界のデジタル化にベンチマークを打ち立てました。当社はこの機会を明確に見極めて、何をしなければならないのかを心得ています」— ジョー・ケーザー、シーメンスAG社長兼CEO

- 受注は14%増の225億ユーロ、売上は3%増の198億ユーロ。モビリティ事業とデジタルファクトリー事業の力強い成長と、シーメンスの風力事業とスペインのゲームサ社（Gamesa Corporación Tecnológica, S.A.）との統合による新規事業が特に売上増に貢献。
- 出荷受注比率は1.13で、2016年度第2四半期のエジプトの大型受注以来の最高比率。
- 為替の影響およびポートフォリオの効果を除く比較可能ベースで、受注は7%増、売上は1%増。
- インダストリービジネスの利益は14%減の22億ユーロ。主にパワー&ガス事業の急激な収益減を短期サイクル事業とモビリティ事業の好業績で補うことができず。前年同期はポートフォリオ利益を得たものの、今四半期は為替のマイナス影響を受ける。インダストリービジネスの利益率は11.0%。
- 純利益は12%増の22億ユーロ。オスラム社（OSRAM Licht AG）株式の売却で得た大幅非課税利益と、アメリカ税制改革後の将来的な税務ポジションの再評価を主因とした大幅な法人税減税の恩恵を含む。基本1株当たり利益（Basic EPS）は前年同期の2.41ユーロから2.68ユーロに増加。

シーメンスは、2018年度期首現在で会計基準IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を採用。前年同期の数値は比較可能ベースで提示。

Siemens

(単位: 100万ユーロ)	第1四半期		増減 (%)	
	2018年度	2017年度	実質	比較
受注	22,477	19,706	14%	7%
売上	19,823	19,213	3%	1%
利益				
インダストリービジネス	2,208	2,568	(14)%	
内、退職手当	(60)	(48)		
利益率				
インダストリービジネス	11.0%	13.2%		
退職手当を除く	11.3%	13.4%		
継続事業からの利益	2,199	1,968	12%	
内、退職手当	(97)	(63)		
純利益	2,211	1,980	12%	
基本1株当たり利益 (単位ユーロ)	2.68	2.41	11%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	872	714	22%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	17.9%	19.2%		

- 当該期間中に統合して設立されたシーメンス・ガメサ・リニューワブルエナジー (SGRE) のポートフォリオ効果、モビリティ事業の大量大型受注、デジタルファクトリー事業の受注増が主に牽引して大幅な受注増。
- シーメンスグループの受注残は 1,280 億ユーロ。
- 売上増には、SGRE の統合効果による急成長、モビリティ事業とデジタルファクトリー事業の 2 桁成長を含む。パワー&ガス事業は予想通り大幅な売上減。
- 為替のマイナス影響は受注増を 5 ポイント、売上増を 4 ポイント押し下げ、ポートフォリオ取引は受注増を 12 ポイント、売上増を 6 ポイント押し上げる。
- インダストリービジネスの主な減益要因は、パワー&ガス事業によるもので、進行する市場の構造的変化により利益が前年同期比でほぼ半減。また為替のマイナス影響がインダストリービジネスの大半の事業に多少なり影響を与えたものの、Healthineers 事業で顕著であった。デジタルファクトリー事業の業績は好調で、前年同期は eCar 事業のジョイントベンチャー関連で 1 億 7,200 万ユーロの利益を計上。モビリティ事業は大幅な増益。
- インダストリービジネス以外では、ポートフォリオ中央管理活動 (CMPA) を通して、オスラム社 (OSRAM Licht AG) 株式の売却で得た 6 億 5,500 万ユーロの大幅非課税利益が牽引して 6 億 500 万ユーロの利益計上。多額の資産除去債務関連で大幅なプラス効果となった前年同期の 4 億 900 万ユーロの利益を上回る。この増益は、主に SGRE との統合とメンターグラフィックスの買収による企業結合で獲得した無形固定資産の減価償却の増加でその多くが相殺される。
- 継続事業の利益と純利益は、アメリカ税制改革後の将来的な税務ポジションの再評価で、差し引きプラスの 4 億 3,700 万ユーロの大幅な法人税減税により、増加。
- インダストリービジネスからのフリーキャッシュフローは、モビリティ事業が牽引して前年同期の 12 億 8,600 万ユーロから 15 億 8,700 万ユーロに増加。この改善が 7 億 1,400 万ユーロから 8 億 7,200 万ユーロにフリーキャッシュフローが増加した主要要因。
- ROCE (使用資本利益率): 平均投下資本が純利益よりも急速に増加。主にメンターグラフィックスの買収と SGRE との統合による。
- 2017 年 12 月 31 日現在の年金給付と類似債務は 97 億ユーロ (2017 年 9 月 30 日現在は 96 億ユーロ)

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざま、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG(ドイツ・ミュンヘン)が2018年1月31日(現地時間)に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下のURLよりご覧いただけます(英文)。

[https://www.siemens.com/press/en/pressrelease/?press=/en/pressrelease/2018/corporate/2018-q1/pr2018010146coen.htm&content\[\]=Corp](https://www.siemens.com/press/en/pressrelease/?press=/en/pressrelease/2018/corporate/2018-q1/pr2018010146coen.htm&content[]=Corp)

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コミュニケーション部 今村

E-mail: masako.imamura@siemens.com